

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

大学進学を考えると避けられないのが「経済的」問題です。授業料のほか、受験費用から始まり、入学金や施設費などもあります。実際にどれくらいかかるのか見ていきましょう。

受験費用には、大学に支払う「受験料」以外に、受験のための「交通費・宿泊費」もあります。複数の大学・学部を受験し、その都度宿泊もするとすると、平均で30万円前後を見込む必要があります。

次に入学費用ですが、進学先によって大きく異なります。国公立大学の場合は平均83.2万円。私立大学だと文系学部で平均104.3万円、理系学部では109.9万円。国公立大に比べて大幅に増額となります。特に、私立大学理系学部では、「施設設備費」「実験実習費」などが加算される場合が多いです。なおこのデータには、入学しなかった大学への納付金(国公立では11.7万円!)も含んでいます。

Q. 大学進学、どれくらいかかる？

これとは別に授業料があり、実際に大学生活を送る上での年間の平均在学費用(生活費は含まず)は、私立大学では、理系で169.4万円、文系で147.0万円。国公立大学は107.0万円なので、私立はそれぞれおよそ1.6倍と1.4倍となっています(以上の数字は、日本政策金融公庫2014年度「教育費負担の実態調査結果」から)。

これらの費用を準備する上で、奨学金と並んで利用者が多いのが教育ローンです。奨学金が「子どもが借り、子ども自身が卒業後に返還する」のに対し、教育ローンは「保護者が借り、保護者が返済する」もの。大きく分けて国(日本政策金融公庫)のものと、銀行、信用金庫、信販会社などの民間のものがあり、それぞれに特徴があります。

国の教育ローンは、金利が民間に比べて低く、在学中は元金据え置き、利息のみの返済も可能です。借入限度額は350万円です。一方、民間は審査が早く、借入限度額

が300万~500万円と、国よりも多額です。各金融機関で商品に特徴があり、例えばオリエン트コーポレーション(Orico)のように、大学と提携し、契約者に代わって学校へ学費を振りこむもの。またスルガ銀行のように、消費者信用団体生命保険付きで利用中に万一のことがあっても全額保険でローンが完済されたり、お金に余裕があるとき専用カードと提携ATMで簡単に繰上げ返済ができるものもあつたりします。

返済計画を考え、家庭にあった商品を選び、上手に「教育ローン」を利用することも選択肢の一つかもしれません。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な“学び”の情報を紹介。次回は小学校受験編。

A. 受験費用 + 入学費用 + 授業料…

CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布される大学進学情報紙「トーチンタイムズ」。最新6月1日号では、『基礎力』の有無が及ぼす、半年後の成績の差」を分析。

